

国際協力

2025.10
秋号
No.85
JICA 駒ヶ根

2025年度2次隊115名、訓練真っ最中!

9月9日(火)、2025年度2次隊の訓練生115名が入所しました。今隊次の男女比は約4対6。平均年齢は33歳で、一番多い年代は20代の67名、60代の方は9名いらっしゃいます。派遣国数は31ヵ国で、一番多い地域は中南米(ホンジュラスやドミニカ共和国など)、次いで大洋州(パラオやソロモンなど)です。

訓練開始から約一ヶ月、訓練生の皆さんは語学に悪戦苦闘したり、派遣に対する不安と葛藤したりしながら、同じ2次隊の仲間との交流を楽しんで派遣前訓練に臨んでいます。

自習風景
シンハラ語の教室で



訓練生代表のあいさつ



夕食 ほっとする時間です

2025年度
2次隊(4名)

長野県のJICA海外協力隊員

派遣にむけた意気込み
をお聞きました!



あさの りんか
浅野 琳香
〈須坂市出身〉

派遣国/タジキスタン
職種/青少年活動

▶タジキスタンの青少年センターで英語コースを運営します。教育県・信州で育った誇りを胸に、挑戦を重ねながら、そして現地の声に耳を傾けながら、未来につながる学びの場づくりに励みます!



やじま ともゆき
矢島 朋幸
〈諏訪市出身(駒ヶ根市生まれ)〉

派遣国/ラオス 職種/青少年活動

▶長野では国民スポーツ大会の開催を控えておりますが、ラオス首都の学校にて陸上指導・普及に関わります。長野は駅伝だけではなく陸上が盛んな県であり、駒ヶ根訓練所がある県としての誇りをもち活動してきます。

ຂອບໃຈ (ありがとう)



おおつ なお
大津 菜緒
〈辰野町出身〉
派遣国/コスタリカ
職種/作業療法士

▶コスタリカの公立の特別支援学校で、0~21歳の方たちの生活技能獲得のため、遊びや学習などを通じた支援活動を行う予定です。現地の方々と楽しみながら支援していきたいと考えています。



みやさか ひとし
宮坂 仁
〈茅野市出身〉

派遣国/アルゼンチン
職種/経営管理

▶アルゼンチン南部のパタゴニア地方にあるヨモドロリバダビアという街で、中小企業の品質改善、生産性向上など経営効率化支援をします。現地の人達と共に悩んで、考えて、行動して、一歩でも先に進めたら嬉しいと思います。

駒ヶ根市のグローバル生にインタビュー!!



牧野さん

佐々木さん

駒ヶ根市のグローバルプログラム（以下、グローバル）に取り組んだ、^{まきのこころ}牧野 想さん（^{ささき みなみ}キルギス／青少年活動）と佐々木 美波さん（カメルーン／青少年活動）にお話を伺いました。

陣馬形山から見る駒ヶ根市

駒ヶ根市のグローバルプログラム

要 請：多文化共生の推進

目 標：外国籍市民が抱える問題を知り、多文化共生に向けた提案を行うこと。

結 果：「外国籍市民アンケート」86件（訓練中の現在も数を伸ばし90件）。「外国人雇用事業者調査」17件。

Q：なぜ、グローバルに参加しようと思ったのですか。

牧野さん：国内で実践経験を積んでから協力隊に参加したい、知り合いが誰もいない場所で自分の力を試してみたいと思ってグローバルに応募しました。

佐々木さん：まずは言葉が通じる国内でチャレンジしてみたいと思ったことと、日本語教育という職種で派遣されるので、実際に日本語を教える経験をしたいと、勉強しに来ました。

Q：駒ヶ根市のグローバルに参加して、いかがでしたか。

牧野さん：派遣前訓練（以下、訓練）が駒ヶ根だと分かっていたので、最初は別の場所でやりたいという思いがありましたが、現在は駒ヶ根市のグローバルに参加できて本当に良かったと思っています。地域の方との繋がりができたことが貴重な経験でした。

佐々木さん：私たち以上に、協力隊のことやグローバルのことを知っている地域の方々がよく声をかけてくださり、そういう方々が周りにいてくださるこの環境がとてもありがたかったです。訓練のために駒ヶ根に戻ってきた時も、ホームに帰ってきたかと思いましたが、安心感を持って訓練に臨むことができました。

Q：グローバルでの一番の成果を教えてください。

佐々木さん：人に支えてもらえるんだなと思ったことが一番大きな学びだったかもしれません。いままで、世の中は冷たい人ばかりだと思っていたので、助けてもらうという経験ができたことで、任国に行っても他人に頼ったり甘えたりしてもいいのかなと思いました。

Q：多文化共生に向けた提案をどうぞ!

二人：地球人ネットワークとの関りを通じて、実は駒ヶ根市はすでに多文化共生がすすんでいるところなのかなと思いました。今回アンケートを取れなかった人・グローバルを通じて出会えなかった人たちが本当に困っている人なのかもしれないと思うので、このアンケートをこれからも続けて、そういった人たちをすくいあげてもらえたらと思います。



日本語教室（地球人ネットワーク in こまがね）でのアンケート調査の様子

Q：ところで、派遣前訓練はいかがですか？

牧野さん：楽しすぎて、一日が一瞬で終わります。キルギス語の学習は大変（苦しい）ですが、他の訓練生との多言語の教え合いや生活班のメンバーとの交流、お互いの経験をシェアし合ったりすることが本当に楽しいです。

二人を応援してくださった地域の皆さん、本当にありがとうございました。二人とも口を揃えて“みんな駒ヶ根市のグローバルに参加した方が良い”とおっしゃっていました。そこには、グローバル75日+訓練73日=148



日の挑戦と学び、そして温かい人との繋がりがあそうですね。



地域の方に茶道を習っている様子

グローバルってなに？



駒ヶ根市のグローバルについて知る



JOCV 60th 特集

@駒ヶ根

写真展 (中川村チャオ)
10月17日 (金) ~ 24日 (金)

HOME COMING DAY
—帰ってきた協力隊たち—
10月25日 (土)

みなこいワールドフェスタ
10月26日 (日)



@全国

記念ロゴ決定!



「Jicakyoryokutai」
という星が誕生しました!

WGSBN (Working Group of Small Bodies Nomenclature) Bulletinにて
正式に公表されました。



記念式典 11月13日 (木) 招待制

スペシャルサイト開設



クラウドファンディング
初期隊員のドキュメンタリー映像制作

「JICA Magazine 特集 JICA海外協力隊60周年」発行

全国各地から協力隊OVランナーが大集合!

9月28日 (日)、第12回信州駒ヶ根ハーフマラソン大会が開催されました。訓練所では、毎年恒例となった協力隊OV (OBOG) の皆さんへ派遣国ゼッケンの配布を行い、たくさんの協力隊OVの方々が派遣国の国旗を胸に、駒ヶ根のまちを走り抜けました!参加くださったOVランナーの皆さん、本当にありがとうございました!!

信州駒ヶ根ハーフマラソン大会は、2028年の国民スポーツ大会開催に伴い、2026年から4年間の休止が予定されています。また5年後に、OVランナーの皆さんとお会いできることを楽しみにしております!



地域のみなさんとの交流会 開催！

9月24日(水)、地域のみなさんと訓練生との交流会を開催し、37名の訓練生と17名の一般の方にご参加いただきました。

この日の最年少参加者となった友野 淑さん(高校生)は、訓練生や地域のみなさんとたくさんお話できて、とても勉強になりましたと感想を述べてくださいました。

この交流会は毎隊次に1回、実施しています。



次回は、2026年1月21日(水)19:00~20:30
2025年度3次隊の訓練生との交流を予定しています。

▶ お問い合わせ 「駒ヶ根協力隊を育てる会事務局」
(駒ヶ根市役所 企画振興課内)
TEL.0265-83-2111まで

NEW スタッフ紹介

訓練担当
やまぐち しんじ
山口 真司



8月より訓練担当スタッフとして着任しました。2021年からの4年間はJICAサモア支所にて企画調査員(ボランティア事業)として勤務し、2007年から2年間はガーナでPC技術隊員として高校でICT授業を担当していました。訓練生の皆さんが充実した訓練を行い、任国で活躍できるようサポートしたいと思います。よろしくお願いします。

毎月SBCラジオ
に出演中！

長野県の協力隊OB・OG、出発前隊員、駒ヶ根訓練所スタッフがSBC信越放送に出演し、協力隊体験談や派遣国の思い出の一曲などを紹介しています。

第3月曜日 13:13 ~ 13:30

【ミックス プラス】内のコーナー「協力隊と巡る音楽世界旅行」

皆さま是非
お聴きください！



SBCラジオHP

2025年度 駒ヶ根訓練所 派遣前訓練人数実績

1次隊：119名 修了、 2次隊：115名 訓練中



2025年、
JICA 海外協力隊事業は
60周年を迎えました！

JICA KOMAGANE
Home page



facebook



発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp